

# 知働化に期待すること

2009/10/15 知働化研究会 #2

綿引琢磨

# 自己紹介

- 綿引琢磨（わたびきたくま）
- 株式会社デライトテクノロジーズ 代表取締役
- Java コンサルタント
- 参加団体・コミュニティ
  - アジャイルプロセス協議会
  - 日本 Grails/Groovy ユーザーグループ
  - DevLOVE 他、いろいろ

# 前回の感想

- 参加前から敷居が高そうと思っていたが、自分にはやっぱり難しかった。。。
- 「様相」のメタファは漠然とはわかるが、まだ完全にしっくりきていない。
- 「ソフトウェアとは何だ？」という問いは今まで考えたこともなく、戸惑った。
- でも、他にはない場で心地よかった。

# ここから本題

# 身の回りの状況

- IT業界に対する不況の波
  - 案件の減少、単価の下落
  - 業界をとりまく閉塞感
- 古い体質の Sler・ソフトハウス
  - 人月主義／派遣中心
  - ゼネコン的な n 次請け受発注

# 今こそ変わるチャンス

これまでの契約、開発プロセス、システム運用／保守のあり方の問題や課題を捉えて変えていきたい。

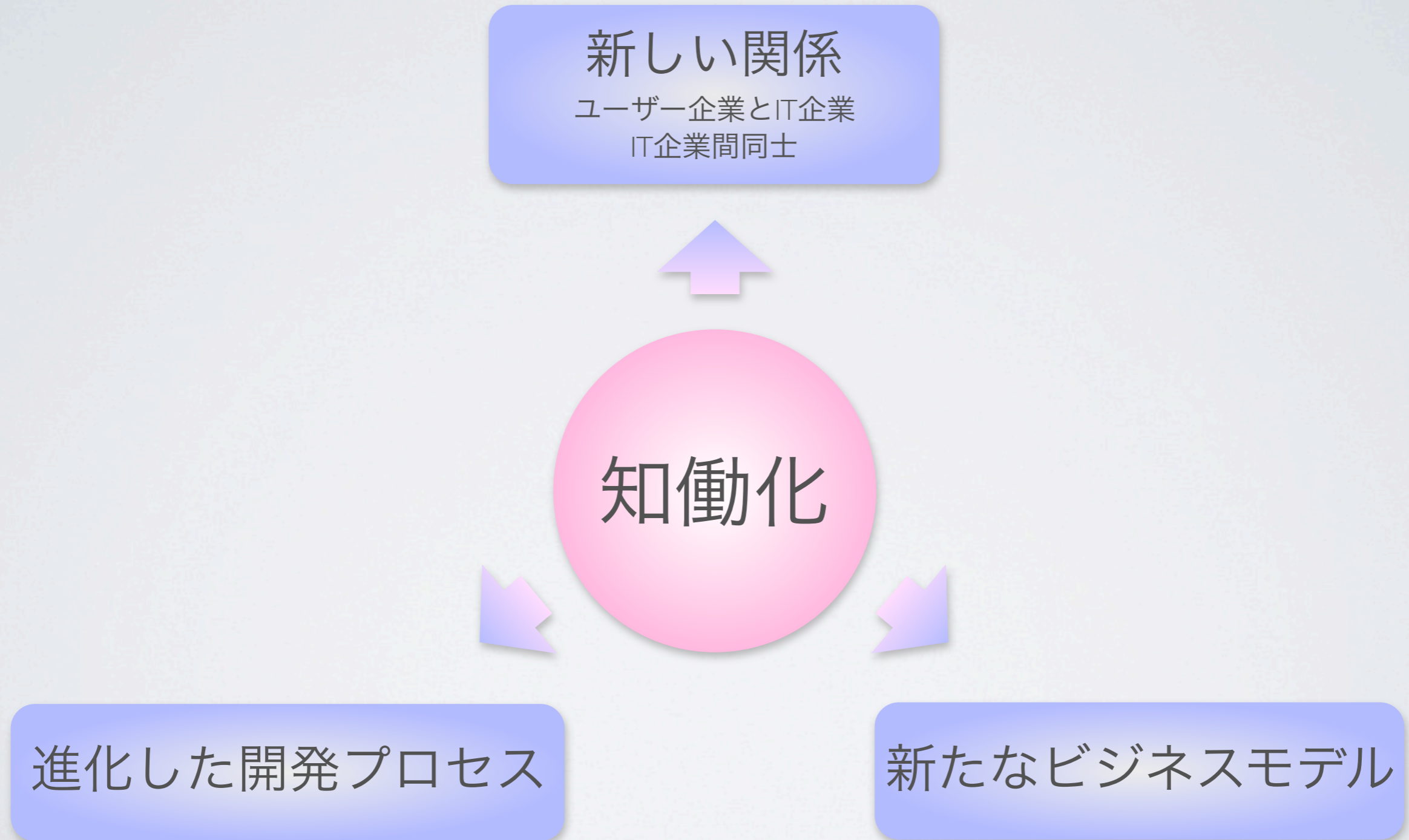


## 知働化への期待

# 私が思う知働化

- パラダイムシフトを伴う何か
  - 具体的なものはまだはっきり見えていない
  - 開発プロセスだけでなく契約のあり方も変わるもの
- 「価値」がポイント？
  - 価値駆動アプローチ
  - 様々な立場の人の「価値」も考えたい
    - システムオーナー、エンドユーザー、IT企業、開発者

# 知働化に期待すること



新しい関係

ユーザー企業とIT企業  
IT企業間同士

知働化

進化した開発プロセス

新たなビジネスモデル



# 知働化に向けて

- いろいろな立場の人を巻き込むことが必要
  - ユーザー企業の人
  - 開発者以外の人（経営、営業、購買）
  - 様々な「知」を集結して具現化へ
- 啓蒙活動も大事
  - 多くの人に「知働化」を知ってもらう

ご清聴ありがとうございました。